

第6次府中市総合計画策定のための市民の意見を聴く会開催結果報告書
(会場別、区分別)

平成24年3月16日(金) 午後7時～8時
白糸台文化センター 講堂 (参加者 3名)

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育問題で、子どもの具合が悪いとき共働きだと、両親のどちらかが子どもを引取りに行かなくてはならない。若い家庭が子育てしやすいよう、待機児童も解消してもらいたい。 ・高齢者問題で、あさひ苑では入所希望者が約200～300人程度いると聞いているが、解消してもらいたい。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却場で、今はクリーンセンター多摩川があるが、それが老朽化する数十年先も見据え、焼却場について考えるべきである。 ・食料品の備蓄について、アレルギー対策をしているのか。東日本大震災でも、子どものアレルギー問題があったと聞いているが、対応を考えてもらいたい。
都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3年前に都市計画マスタープランを作成していたが、総合計画とどう関わるのか。 ・まちづくりの分野は総合計画と同じであり、同じようなことを聴くのではなく着実に実現して欲しい。 ・市には、狭い道が多い。消防車や救急車が通れない道が多いので解消してもらいたい。 ・自転車の利用が注目されているが、自転車道路について、今後つくる予定があるのか。旧甲州街道は車道を走るのが危険である。市も考えるべきである。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市の予算も減っていく中で、どこまで総合計画に示す政策が出来るのか。平和島競艇も厳しくなっていると聞いている。 ・財政的な問題を考えると、市議会議員の定数も考える必要がある。 ・市の自治会への依存度が高い。すべて自治会に依頼が来ている。昔に比べると自治会に出る機会が多くなった。もう少し、考えてから頼んでももらいたい。 ・市の職員について、すべてではないが、若い職員の対応は良いが、数名の中高年職員の接し方に不満がある。市のマイナスになるので、各部署でアンケート用紙などを置き、待遇への評価を聞くなど、改善できる仕組みがあっても良いのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の建替え計画を策定したと思うが、どの程度進んでいるのか。計算方法によっては四谷まで立川断層が来ているので心配である。 ・「市民の意見を聴く会」への出席者が少ないこと自体が問題である。広報やチラシ回覧のみではなく、自治会を通して働きかけることも考えるべきである。

平成24年3月16日（金） 午後7時～9時10分

市役所北庁舎 第1～3会議室 （参加者 5名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none">・社会福祉協議会の支援を受けて、子育て広場をはじめ3年になる。保険料などいろいろなコストがかかるが、3年を経過すると支援がなくなってしまう。この活動を継続していくには、受益者負担だけでは難しく、必要な活動については継続的に社会福祉協議会が支援し、活動を育ててもらいたい。また、市にも同様の支援制度があるが、提出書類が多いようで利用したことはない。・保育所になかなか入れないという状況が続いているが、解消してもらいたい。・少子高齢化の時代で、子供が増えるということは喜ばしいことであり、市にとっても良いことである。子育てのしやすさは、市の魅力になると思うので、重点的に整備してもらいたい。子育ては、地域を取り込んだ市民参加などにもつながると考える。第6次総合計画では、子育て支援施策を強く打ち出してもらいたい。・見守りボランティアをやっているが、学童クラブと放課後子ども教室が縦割りになっている。活動内容は違うが、同じようなことを行っているため、統合してやることにより、地域の人々も入っていきやすいのではないか。・府中市は、中学生まで医療費が無料の施策をとっているが、無料では必要以上に医療サービスを受けてしまうのではないか。・中学生までの医療費無料については行き過ぎである。安いぐらいであれば良いが無料は問題である。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none">・市内には公園がたくさんあるが生かされていない。お年寄りのコミュニティになるよう、お年寄りが体を動かす遊具が置いてあると良い。・郷土の森が整備されているが、木を100本切ったという話を聞いた。また、是政に新しい公園が整備されたが、誰もいない公園になっている。公園整備の際には、地域の人々の意見を聞きながら整備するなど、人が集まるような整備をして欲しい。・市民の憩いの場となるように、1つの公園に1つの花壇「1公1壇」をつくって欲しい。市民花壇という制度はあるが、高齢者や若い方が参加できるボランティア主体の花壇をつくることで、高齢者の生き甲斐づくりにもつながると考える。・都には、「東京ふれあいロード・プログラム」という、市民が参加して道路の清掃や植栽の手入れ等の美化活動を進める制度がある。市もこのような取組を進めてもらいたい。意識を持ってまちづくりに取組む場が必要である。・自宅マンション前の歩道の木が台風で折れたようで、その後何も植えられていない。市に相談したが、マンション住民の日照や景観上の問題もあり整備は難しいとのことであった。自分で植えたい気もするが、市は樹木整備は行うが、補充などは行わないということか。

生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の森で木が切られたという話があったが、大きくなった木は30年で切らないと新しい芽が出ないということがある。大きな木を適切に維持管理していくことが課題である。 ・是政に用水があるが水が流れていない。 ・用水に年間通水することが、子どもの教育に良いといわれることもあり、安全性の問題や維持管理の問題もあると思うが、年間を通して通水してもらいたい。 ・ダストボックス跡地がコンクリートになっている。花壇をつくれぬか。花壇整備を許可してもらえれば、やりたい市民はいると思う。 ・自転車に乗る人のマナーの向上が問題である。自転車に乗る人の教育が必要である。小学校できちんと教育すると良いのではないか。 ・国によっては、道路を一方通行にし、自転車が安全に通行できるようにしていると聞く。自転車の利用者は増えると思うので、自転車対策は重要である。 ・防災課によると、府中市は多摩川が決壊した場合のことは考えていないとのことだが、そうなった場合の対策や連絡体制を整備してもらいたい。決壊でなくても、ダムが緊急放水する際に、情報を伝える仕組みなども整備してもらいたい。 ・地域コミュニティでも防災体制がとれるようにしてもらいたい。 ・防災対策のためにも、小さなコミュニティが重要である。 ・西府町あたりには、行き止まりの道路が多くあり、防災上危険である。私道が整備されているが、途中に塀が設けられており、通り抜けることができない。一方通行の狭い道も多い。西府町から鎌倉街道に抜ける道は3本しかない。 ・開発にともなう危険性の高い地域をどうするかが課題である。 ・大型マンションや都営住宅の敷地内を通り抜けできない等、防災上の問題がある。 ・道路に消火栓があるが、消火栓につなぐホースがどこにあるのか知らない人も多い。消火栓の位置やホースの位置を明示しておくことが必要である。
文化・学習	<ul style="list-style-type: none"> ・私が住むマンションでは、コミュニティカフェなど人が集まれる場をつくろうという話をしている。府中市はこれまで至れり尽くせりでやってきたが、これから先もこのサービスを継続することは難しいと考える。本当の意味で市民が協働する、市民が自分たちでやっていくという意識を作っていく必要がある。 ・地域コミュニティは充実させていく必要がある。自治会に入っているが、様々な問題に対して、みんなで解決に向けての話し合いをするまでには至っていない。地域コミュニティを活性化して行くための施策を展開してもらいたい。 ・文化センターは対象地域が広すぎるので、ちょっとしたコミュニティの場があると良い。 ・防災ステーションの風呂を利用している高齢者と接する機会があるが、利用している方が来ない時は安否が心配になる。今は個人情報関係で、連絡することができないので、来館者同士がつながりをもてるような仕組みがあれば良い。 ・自治会の方々も高齢化しており、新住民とのコミュニケーションも難しい。

<p>文化・学習</p>	<p>地域包括支援センター連絡会に入っているが、自治会長に対して一緒に何かやろうと声かけしてもなかなか難しい。空き家などを利用して集える場を市を通して提供してもらえないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある市民を育てていくという方向に転換してもらいたい。 ・市の市民活動支援への助成制度については、ある程度の自由度があると良い。色々なアイデアが浮かぶと思う。 ・高齢化や役員をしたくない等の理由で自治会をやめていく人がいる。私がいる自治会も昔と比べると会員数が半分程度になっている。体調の問題でできない人は役員を免除するなど必要である。自治会としても考えていく必要がある。 ・女性センターで活動しているが、男女共同参画に関する予算が減らされる方向にある。なぜ男女共同参画の取組みが必要であるのかを伝えていく必要がある。また、施策名に「拡大」とあるが、拡大は難しくとも、少なくとも男女共同参画の考え方を理解できるようになることが必要である。 ・学校の校庭の芝生化を進めているが、何年度までに整備する予定か。関連する工事と一緒にすれば、コストを抑えられるのではないか。芝生の管理は保護者や地域の人々で対応できるのではないか。 ・生涯学習活動の支援について、生涯学習のファシリテーター養成講座を受けたが、このような人材を育てていく必要がある。社会教育にも計画的に取り組んでももらいたい。 ・総合型スポーツクラブというものがあるが、各体育館にそのような施設を持とうとしているのか。 ・府中市で生まれた「ラリーテニス」は高齢者にも良いと思うので、全国展開すると良い。府中市のPRにもつながる。 ・平成18年に教育基本法が変わり、地域の人たちも学校に関与しなければならないという方向性変わったようだ。しかし、そのこと自体が地域に周知されていない。高齢者の方などが関与できると良いのではないか。 ・子どもが減ってきた時に、地域の人が教室を使えると良い。何かモデル的に学校開放の事例ができると良いのではないか。 ・青少年の健全育成で、子ども同士で話ができる居場所があると良い。 ・高齢者世帯の入浴で補助があり無料となる方がいると聞いているが、100円程度は徴収する方が良いと思う。ある程度の受益者負担を求め、費用経費の意識を持ってもらうべきである。
<p>都市基盤・産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市に約30年住んでいるが、高層マンションが駅前に建ち、昔のイメージと変わってしまった。高層マンションを建てるのはどうかと思うが、長期的なビジョンをもって整備してもらいたい。 ・段差のある歩道は減らしてもらいたい。段差があるために、自転車と車が接触したという話を聞いている。

行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・無料でやっている施策について、再度見直ししてもらいたい。 ・割引はするにしても、無料は問題である。これからは受益者負担を求めるべきである。 ・なぜ、府中市民は市政に関心が薄いのかを考えたが、府中市は経済成長に合わせて、市がどんどんサービスを提供してきた。市民アンケートを見ても満足度が高いから意見がないのではないかと考える。 ・今後は市民の意識も変えていかなければならないと考える。土壌的なこともあるが、市としてもより参加してもらえよう努力する必要がある。府中市は説明が不足していて、稲城市の方がよく説明をしている。 ・計画書をつくることがゴールではなく、具体的な行動として花壇をつくるなどのアクションがゴールである。緑豊かなまちにすると言われるよりも、具体的なアクションが示されていると良い。 ・今後は予算が厳しいと考えられる中で、協働が重要になってくる。自分たちがこのまちを良くすると思えるように仕向けてもらいたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の計画策定は、テーマ別の市民の声を聞いて計画を作るようであるが、前回は85名しか参加がない。市民の声をいかに集めるかが重要であり、ここに力を注ぐべきである。 ・今回のパンフレットを見ても、どんな意見を出せば良いのか分らない。意見収集の方法を、より分かりやすくしてもらいたい。 ・パンフレットを各戸配布したり、図書館で直接配布して意見を集めるなど、熱意を持って意見を集めるべきである。 ・今日も参加者数が非常に少ない。広報広聴活動に力を入れてもらいたい。

平成24年3月16日（金） 午後7時～9時
住吉文化センター 講堂 （参加者 10名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・中河原駅の鎌倉街道の歩道橋に高齢者や障害者が利用しやすいようにエレベーターを設置するなどしてもらいたい。 ・福祉費は削減してもらいたくない。 ・総合計画の中で「障害者」という表現を使うことはよくない。生活の一部が不自由なだけなので不適切であり、その他の内容も含め本質をよく考えた書き方をすべきである。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・各文化センターは大規模災害発生時の2次避難所となっているが、要援護者を受け入れるためには一次避難所よりも設備、備品、職員の配置を充実させてもらいたい。また、市民に避難所の現状について知らせてもらいたい。 ・「人に優しい」という視点は大切である。

- ・震災時に小学校の子ども達を親が引取るということになっているが、すべての親が対応できるわけではなく、現実と合っていないのではないか。
- ・現在の教職員数で子どもを守れるのか、地域も高齢化していて、災害時の対応の体制について考える必要がある。
- ・日中は高齢者がまちを見守っている。
- ・災害対策では、地域との連携や企業との連携が大切である。
- ・避難場所は地区別に想定されているが実際に集まったことはない。実際に集まった時にどうなるのか、どのような対策を打てるのかを考えておくべきである。
- ・防災倉庫を管理するのも行政だけではできない。学校に任せるといってでなく、地域が協力して管理すべきである。
- ・想定外の事態への対応を考え、早急に対策を講ずるべきである。
- ・避難所となっている文化センターも24時間対応はできない。現実的に対応できる方法を考えなければならない。
- ・地域の企業や自治会組織、社会福祉協議会、NPO、地域の活動団体などと、災害時の連携協定を結ぶなど、連携を協議する場をつくるべきである。
- ・38年前の大洪水の記憶もあり、大震災があった場合に多摩川の堤防の決壊が大変気になる。
- ・立川断層の地震が発生した際なども、避難に伴う人災が発生しないように対策しておくべきである。
- ・災害時はまずは自助、また、その先には公助が必要である。
- ・開発などによって、今のまちの中に隠れてしまっている危険など、地域の人にしか分からないことがあるので、そのような情報の共有が必要である。
- ・自転車の交通規制はあるが、ウォーキングの環境は依然として危険な状態となっている。
- ・規制の看板やサインはあるが自転車に乗っている人たちは、それを見ていない。
- ・バーベキューの広場前など子ども達も横断するような場所で、スピードを出している自転車がいる。
- ・自転車と歩行者の通行をしっかりと分離してもらいたい。
- ・多摩川の堤防は歩くのが楽しみだが、自転車通行帯と歩行者通行帯が途中までしかなく、四谷橋まではないため、今でも衝突事故が起きている。
- ・いつも歩いている人はルールを守るが、遠くから来る人はルールを守ってくれない。遠くから来る人への意識付けも大切である。
- ・基本的なルールが守られていないのが怖い。注意しても聞いてくれない。
- ・関戸橋付近で、自転車同士の衝突があり危険なので規制を市に依頼したが、道路法上の道路ではないため対応ができないとの回答であった。
- ・多摩川沿いを歩いていた際に怪我をして、市に問い合わせたが対応できないとの回答だった。

<p>生活・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故は、「ちょこっと共済」の交通災害の対象にはならないのか。 ・多くの人が利用する通路は、道路交通法が適用されないのか。 ・一般市民に知りえないことが多いので、行政は調べることでくらはすべきである。 ・地域防災とあるが、地域に任せてもらった方が良いのではないか。 ・市の防災対策は、あるとかえって弊害になるような気がする。市がやるのではなく、地域の活動を支援する形の方が良いのではないか。 ・学校の場所と避難場所が離れてしまっている状況があるように、市の防災対策が大きな勘違いをしていることもある。 ・地域のことを知るのは市民であり、災害の予知はできない中で、行政の役割は防災よりもむしろ復旧対策ではないか。 ・行政と地域で役割がマッチできるかどうか、復旧の速度を決めるのではないか。 ・災害防止へのチェック機能を高めることを検討するべきではないか。 ・災害への予備知識はそれぞれが持ちあわせている。 ・災害が起きたその後のことを重点的に考える場づくりが必要なのではないか。 ・防災倉庫を公園に置きたいが、公園はそのような場所ではないとの規制がある。 ・行政が関わると規制が増える。 ・市の責任は看板さえ立てておけば避けられるのか。 ・公園でキャッチボールを禁止するなど、何のための場所か分からなくなっている。 ・公園の管理に費用がかかり難しいなら、地域に謝礼でも払って頼んだほうが良い。 ・市の「緑の基本計画」策定の際の公園緑地課の素案は「量の確保は難しいので質を確保する」というものだったが、質を確保するための具体的な計画はなかった。 ・市内の緑地700ヘクタールのうち200ヘクタールが多摩川の緑地である。 ・府中は公園緑地が多く、恵まれていると思う。 ・今のこの環境を守っていくことが大切である。 ・NPO「環境市民の会」を立ち上げた。 ・「ちょこっと共済」が多摩川沿いの道での自転車事故に適用になるのかどうか。
<p>都市基盤・産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法は全体を見た場合の計画であり、地域に密着した計画にはなりえない。
<p>行財政運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念がしっかりしてなければならない。これがないとまとまるものもまとまらない。 ・基本理念となる「市民に円滑に生活してもらおう」ということをもっとよく考えてもらいたい。 ・人が人として生活するために何が必要か、行政がこの点をどう考えているのかに

行
財
政
運
営

- ついでの基本理念をしっかりと示してもらいたい。
- ・ 国の方針を正さなければ直らない部分もあると考える。
 - ・ 総合計画は、文章化してしまうと難しく取っ付きにくくなる。「楽しい」などもっと読みやすい表現が重要である。
 - ・ 情報が伝わりにくい。受取り手の立場に立って、取っ付きやすいものとしてもらいたい。
 - ・ 府中市は今も住みやすいまちだと思っているので、今の状態を悪くしないということが大切である。
 - ・ 市民と行政の関係は隔たりがある。市と市民は一体化すべきである。
 - ・ 市民同士の連携が大切である。
 - ・ 府中市民はまちづくりに対する関心が薄いのではないか。
 - ・ 「総合計画」などと聞くと難しく参加しにくくなる。
 - ・ 話してみればいろいろな意見が出るし、そのようなことは大切である。市民が参加しやすくなる雰囲気づくりが何より大切である。
 - ・ 見知らぬ人同士でも、食べながらだとなぜか話が弾む。こういうことは大切ではないか。
 - ・ 場づくりは、とても大切である。
 - ・ 出された意見を大事にするということが大切である。
 - ・ 市民から様々な意見が出された時、市はどう対応するのか。
 - ・ 市長への意見を出しても当たり障りのない意見しか返ってこない。市長には前向きな意見を示してもらいたい。
 - ・ 複数の課で対応すべき問題もあるので、市民の意見をワンストップで処理できる体制が必要である。
 - ・ 市民生活を安全に、かつ滞りなく整えるのは行政の責任ではないか。
 - ・ 行政には横のつながりがなく、直接対応した窓口の人間しか問題の発生という事実を知りえない状況である。
 - ・ 市民窓口で、融資制度等の適用基準を3千円下回っただけで受け付けてもらえなかった。
 - ・ 全体よりも、より地域に入り込んだ部分の事情をどうくみ上げていくか、総合計画に示しきれていないもの、市民にしか知りえないことがあることを認識すべきである。
 - ・ 第5次後期基本計画（概要版）のパンフレットの中に何か新しい取組みはあるのか。市民には見えないだけなのか。また、市は分かっているのか。
 - ・ 他の県庁所在地と比べて、府中市は恵まれている。
 - ・ 行政に対応してもらうことは沢山あると思うが、府中市は恵まれている。
 - ・ これまでの総合計画の実績を知りたい。
 - ・ 市庁舎も耐用年数が過ぎていると思うが、どう対応する計画となっているのか。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・散弾銃の弾が散乱していたことがあり警察に行ったが、部署が違うという縦割りの対応をされた。 ・「市民の意見を聴く会」などの取組みを進めて、啓発していくのが行政の役割ではないか。 ・普段からの啓発が足りないから今回の会議も出席者が少ないのではないか。
-----	--

平成24年3月17日（土） 午後2時～3時30分
 是政文化センター 講堂 （参加者 4名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・榊原記念病院は市で土地を提供しているのに、市民にとって恩恵がない。稲城市では市民優先の対応があると聞いている。 ・せめて診療科目を増やしてもらえれば良いと思う。 ・市内の救急だけでもしっかりと対応してもらいたい。 ・市内で救急の対応ができず、結局稲城市に搬送されているような状況となっているのは問題である。 ・高齢者がいつまでもいきいきと暮らせるように、各種団体との連携に重点を置いてもらいたい。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の問題などもあるが、防犯カメラの設置は犯罪抑止の効果もあるので考えてみても良いのではないか。 ・個人の財産が侵害されているので、市で対応しても良いのではないか。 ・行政の管理者は市なのだから、何か対応を求めたくなる。 ・ダストボックスはなくなって良かった。以前ダストボックスがあった頃は、不法投棄をした人に注意すると脅迫されたことがある。 ・市の防犯灯の電気料金は誰が払っているのか。 ・防犯灯等のLED化はしないのか。 ・二枚橋焼却場整備について、なぜ府中市は反対しないのか。府中市は中立の立場だと聞くが、調布市が反対しなくなったら復活するのではないかと心配している。 ・反対が決まった場合、その土地をどのように活用する予定か。 ・小金井市と一緒にになって再稼動する可能性はなかったのか。 ・府中市の東側は防犯上良くないと感じているが、市として何か対策はとれないか。 ・今の交番の数ではカバーしきれないのではないか。 ・多摩川河川敷の利用状態は、二子多摩川付近の状況に似ていると感じる。川崎市は利用するには有料で、狛江市は利用禁止という状況なので、今後府中市に影響が及ぶことを心配する。

都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤を議論している部会メンバーの中では、公園緑地を増やしていこうという感覚が強い。 ・企業と連携して見学コースをつくるなどの観光施策も良いのではないかと。史跡と企業見学や平和島競艇場、東京競馬場見学などもセットにしても良いと思う。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業は電気関係が多く、今後業績が厳しくなることが予想される。税金を確保するためには、企業を支える方向で市民が協力した方が、観光面での収入増を目指すよりも財政上は良いように感じる。財源確保について市はどのように考えているのか。 ・再開発のエリアに市庁舎を移転したらどうなのか。 ・平和島競艇場の経営状況はどうか。 ・一つひとつの施策がすべての問題に関わっているので、市も縦割りにならないようにしてもらいたい。 ・市民検討協議会は流れがつくられてしまっているように感じる。 ・市民検討協議会は7月までの短期間でまとめ切れるのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビで放映された「噂の東京マガジン」で市の職員が別の見解を示してしまったような、恥ずかしいことはしないでほしい。 ・家の前にあるコンビニエンスストアの裏にある樹木が伸びて家が日陰になっているので対応願いたい。

平成24年3月17日（土） 午後2時～4時10分
 新町文化センター 講堂 （参加者 5名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護を受けている人が、府中市では4千人を超えていると聞いている。大阪では、生活保護者の認定について、市の職員の調査が充分ではないことや、市議会議員の圧力があることなどが、生活保護者が増えている原因ともいわれている。働ける状態なのに働かない受給者もいるように見える。認定後のフォローアップが必要である。 ・生活保護受給世帯は、ゴミ袋を市から無償支給されている。実際、ゴミの出し方を見ると、ゴミ減量の意識がないように感じる。 ・府中市は、福祉政策が手厚く、福祉に偏ってしまっていると感じる。 ・生活保護について、認定期間の設定や認定のガイドラインについて、市として考えた方が良い。

健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・扶助費のトレンドをみて、市議会議員などから改善を求める提案はないか。 ・生活保護の支給について、受給することで働く意欲がなくなるような仕組みではなく、働く意欲が湧いてくる仕組みを考えてもらいたい。働いている人との間で、公平・公正な仕組みが必要である。 ・高度経済成長を経験し、人間が贅沢になってきている。公共サービスの水準や、様々な基準について見直すべきである。 ・立川市で高齢者の孤立死がニュースになった。新町は24%、栄町は26%近い高齢化率である。府中市でも起こらないとは限らない。町内会と地域包括支援センターの支援体制はできているが、これを小さな地域で対応できるような取組へと発展させる必要がある。 ・以前、自治会長の時に、民生委員に一人暮らし高齢者リストの問合せをしたが、プライバシーの問題で出してもらえなかった。自治会長までには教えて欲しい。 ・これからの時代、プライバシーの保護など、原則は分かるが、ある程度の拡大解釈も必要と考える。 ・待機児童について、2歳未満児の割合が多いと聞いている。それにもかかわらず、0歳は受け入れず1歳以上だけを受け入れる保育園があると聞いている。 ・幼保一元化の取組が進められると聞いているが、待機児童の減少に寄与するのではないか。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・正月に飾り物をするが、それをごみに出すのは問題だと思う。文化センターで一括して集め、どんど焼きに出したらどうか。 ・小金井市では野菜クズ、学校の残飯を肥料にして市民に配っている。府中市では堆肥化する機器の購入費用を補助しているとのことだが、一般の市民は肥料は利用しないので、小金井市を見習うべきである。 ・効率面で考えると、現在のように広域のごみ焼却場の方が良いと思う。 ・ごみ焼却場は、広域で熱量を確保した方が、排気も安全であり効率的だと考える。 ・マンション化などで緑が減ってきているように思われるので、府中市は緑が多いとは思えない。 ・医療少年院の跡地やアジア研究所跡地などを買取って緑地・公園にしても良いのではないか。 ・斎場の運営について、西部地域にも造る予定が聞こえているが、無理に造る必要はないと思う。 ・東八道路の武蔵野線の切り通し部分の電灯が常についている。明るいときは電灯が消えるシステムにするべきである。 ・自治会もなかなか機能していない。地域で清掃活動などを呼びかけても、市に任せれば良いという声もある。市から自治会へ自分達でやるべきことはやるよう、メッセージを発信してもらいたい。

生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・海外では、自転車、歩行者、自動車の信号が別々になっているところもある。東八道路は自転車のスピードが出て大変危険である。比較的幅があるので、自転車を分離できないか。 ・多摩川の河川敷は、道路ではないとのことだが自転車が危険である。大きな事故が発生したらどうするのか。問題が大きくならないうちに対処策を考えた方が良い。
文化・学習	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの問題は、地域で複数の人達が協力し、気長に根気よくやらないといけない。直ぐに答えが出るものではないので、日常の中で、一人ひとりが根気良く取り組む必要がある。 ・文化センターの風呂について、無料は問題だと思う。25万人市民に役に立っているか再検討する時期だと思う。 ・文化センターの風呂に費やしているコストをシミュレーションし、市民や利用者一人あたりの負担額など、分かりやすい形で市民に問いかけるべきである。 ・自助・共助・公助の関連性を、しっかりと考えて取組まないといけない。これからの時代は過去の右肩上がりの時代ではないので、直すところは直すべきである。 ・すべてのことは、人間を基本に考えてもらいたい。小さいころから、人のことを考え、常識ある社会人として育つ教育も総合計画に盛り込んでもらいたい。 ・せっかく芸術劇場、美術館があるので、近隣の小中学校以外も鑑賞するような取組をして、日本文化を涵養する教育を期待する。 ・天神町にマンションが建設されるようだが、六小がパンクするのではないか。市は、将来人口をどのように考えているのか。 ・東京都全体として世帯人員が2人を割り込み、将来的には人口が減少するのは確実に考える。 ・東京外国語大学、東京農工大学という立派な大学があるので、高齢者の学習の場にするなど工夫することにより、外部の人を呼ぶことも出来るのではないか。
都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・東八道路は、将来的には幹線道路になると思うので、地域のまちのあり方、お年寄り、子ども達、障害者の方も考えた上でハードを備えてもらいたい。 ・東八道路は公共バスのルートがないが、バスを通すことはできないのか。 ・狭隘道路については、簡単に拡幅は難しい。災害時には、配水管を消火活動に使える仕組みを広げてもらいたい。 ・人口減少、税収減少が進む中、観光による活性化も考える必要がある。 ・開催日以外の東京競馬場、サントリーの工場など、それぞれの資源の価値はあると思うので、それらを結びつける工夫があっても良いのではないか。 ・市として観光やイベントは、それなりに行っていると思う。観光協会などが取組んでいると思うが、情報の提供や観光資源の有効活用について、旅行会社の社員をヘッドハンディングするなど、外部の知恵を反映する取組みも必要である。

都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少時代になると、都市間競争が激しくなると思う。選ばれる市となるため、市の魅力向上を考えているか。 ・電線の地中化は難しいと思うが、電気と電話を共同柱として、狭い道を少しでも広げるよう行政指導してもらいたい。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・広報について、広報紙やケーブルテレビがあるが、各町内に一つは広報掲示版を設定するように工夫してもらいたい。密集市街地では、市からポスターを配布されても貼れる場所がない。 ・比較的開発が新しい地区は、ダストボックス用地が確保されていた。その跡地を、地域で市広報や地域広報などの掲示場所として活用する場合、資金面で支援する取組も必要である。

平成24年3月17日（土） 午後2時～4時

武蔵台文化センター 講堂 （参加者 5名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書の表記の中で、障害者という表記に「害」を使わないでほしい。平仮名の「がい」か石への「碍」を使ってもらいたい。 ・他県に住む親が認知症になりグループホームなどを探すときに市に相談をしたが、在住市民でも待機しているため、他市からでは優先順位が低くなり、実際には介護サービスを受けられないという説明を受けた。都の住宅も3年間都内に住まない借りられない。介護が必要な親を呼ぶことができない状況は、他でも発生していると思うが問題である。 ・他市からの高齢者の転入の問題は、優先順位から回ってこないという話だが、どこまで受け入れるのか考える必要がある。長く住んでいる市民や家族が府中市民、全く住んでいない人などの区分を考えていかなければならない。 ・在宅介護は、親子関係で見ていくものであり、現状では親を看たいという気持ちがあるにもかかわらずそれが阻まれている。 ・保育園を整備すると、他市から転入してくるという現象が生じている。住みやすい府中を守るためにも、周りの市に働きかけ、他市のサービス水準を引き上げていくと、府中市への流入に歯止めをかけられると考える。今のままだと、府中市にどんどん流入が生じて対応できなくなることが懸念される。 ・震災の際に、電気が止まったために、人工透析や人工呼吸器が使えなくなり亡くなった方も沢山いたと思う。今後、寝たきりなどの方の対応をどうするのか考えていかなければならない。

<p>生活・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西原町の墓地問題では、問題が発生しないよう法令等の整備を進めてもらいたい。 ・市の4～5%の土地が墓地になっている。市として墓地にどういう考えを持っているのかを明確にしてもらいたい。 ・西原町に越してきて1年になるが、今問題となっている墓地付近に住んでいる。今回の墓地問題を考えると、交通の問題、犯罪の問題が心配である。防災拠点として、七小があるが遠すぎる。墓地用地を防災拠点として市で利用できないか。 ・これ以上墓地を増やすと、固定資産税がマイナスになると考えられ、市として墓地問題に強い方向で検討してもらいたい。 ・広域の防災について、市としてどう考えているのか。 ・府中市は良いまちであり、今後も良いまちであり続けるために、墓地用地を防災用地や福祉用地として活用してもらいたい。 ・東日本大震災を受けて、防災機能をどうするのか。第6次総合計画では、これまで以上に防災に関する書き込みや体制整備が必要である。 ・防災課によると、災害時の水と食糧備蓄は市民の3割に対して3日分用意できているとのことで、市ができることはここまでであり、市民が自分自身でやることはここであるなど、市民が防災対策をとれるように、どう広報していくのか課題である。次の総合計画は、広報戦略を重視していく必要がある。 ・震災では食糧だけでなく、医薬品の問題がある。東日本大震災では、薬がなかったために亡くなった方もいたと聞く。家庭への医薬品の備蓄や薬品業者に協力をお願いしていくなども防災計画に盛り込んでいく必要である。 ・水害について考える必要がある。防災倉庫が地域で一番低いところにある。防災計画で検討することだが、上位計画として何かできないか。
<p>文化・学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方も参加できるような生涯教育が必要である。
<p>都市基盤・産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢丹府中店が計画期間中に20年の契約期間を迎える。伊勢丹が撤退することになれば、市としても大きなダメージを受けると考える。市や市民の応援が必要ではないか。「にぎわいのあるまちづくり」として、市中心部の活性化を考えてもらいたい。 ・郷土の森で、昨年11月から物産館が開設しているが、予定通りに進んでいない。農業振興にもつながるものであり、活性化しているのか課題である。 ・浅間町の国立衛生研究所や国家公務員宿舎の計画が延期や中止になっているようだが、どうように対応していくのか方針をつくる必要がある。 ・西原町で墓地問題が発生しているが、七小通りは通学路でもあり、道路は非常に狭く危険である。自治会でも交通整理をするなど、地域で治安を守ってきた。

都市基盤・産業	<p>富士見通りも歩道が南側にしかなく、自転車、歩行者、乳母車などが混在して、事故がよく発生している。墓地の出入口が交通量の多い交差点付近にあり、危険な箇所に墓地が建設されようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墓地整備を止めることができないのであれば、危険性が高まることに対して考えていくことがまちづくりであると思う。交通安全、防犯の面でも墓地になることで危険性が高まると考える。墓地予定地を市が買収して防災拠点にするなどが考えられないか。 ・総合医療センターが整備されたが、センターに近い西原町に患者などが移り住んでいる。弱者に対して優しいまちとなるためには、墓地が整備されるなら、歩道を広くするなど問題が起こる前の対応を取ってもらいたい。 ・立川断層のこともあり、防災拠点が必要である。 ・西府町の東西通路は行き止まりが多い。人や車が入ることを防止するためにそのようにしているかもしれないが、防災の観点から行き止まりは問題であり、災害時に逃げることができない。また、消防車も通ることができない。市営住宅の建替えにより、道路が変わることを期待する。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で、今回発言したことに対するフィードバックがあることを期待する。それであれば、多くの市民が会議などに参加するようになると思う。会議に出たが意見が反映されなければ市民は出てこない。 ・総合計画はどうしても具体的な書込みができないため、予算説明の際に、総合計画に掲載した事業を行っているという説明をしていけば良いのではないかと。個別計画に対して、総合計画を踏まえた記述にするよう関連性を整理したらどうか。 ・第6次総合計画で、第5次から変えなければならないのは、今後の厳しい財政状況を踏まえた書き方にしていくことである。前提条件である収入について、第一地区の再開発事業や市庁舎の建替で約300億円程度の予算が必要のようだ。これらを支出しても、これまでどおりの行政サービスを提供することが可能かどうか市民に説明してもらいたい。 ・市の政策判断を見ていると、他市と比べるとまだ大盤振る舞いを行っているように見える。今後は、どれだけ節減できるのかに気を配ってもらいたい。 ・四谷のNECの土地を市が買収する予定があると聞いたが、公園緑地が増える話なので市民としては良いが、用地取得費用等が財政上負担にならないか心配している。優先順位ときちんとつけて、政策判断をしてもらいたい。 ・小中学生の医療費が無料であるが、いくらかは負担してもらいべきである。負担を設けることで、必要性の低い受診や不要な投薬が減るなど、考え方も変わってくると思う。 ・これからは、市民ができることは市民ができるようにしなければならない。これまでは財政が豊かであったが、財政が厳しくなることが見込まれる中で、市民も

行 財 政 運 営	<p>相応の負担をしなければならないと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が財政状況を踏まえて考えることができる雰囲気・環境をつくっていく必要がある。 ・市民は、情報があれば考えられるが、情報がないと考えることはできない。協働・共創するためには、情報共有が不可欠である。 ・広報について、本日の意見をどう市民にフィードバックしていくのかが課題である。5年前に参加した都市マスタープランに基づく「まちづくりプラン」の検討の際にはインターネットで意見が公開されていた。今回も同様に公開してもらいたい。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の市民の意見を聴く会の開催を知ったのは、前日の午後6時である。回覧板が回されたのも16日からであり、もう少し早く周知すべきである。

平成24年3月17日（土） 午後7時～8時30分

紅葉丘文化センター 講堂 （参加者 11名）

区分	意見・要望
健 康 ・ 福 祉	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の都の熱中症対策では、都の予算がついて、定期的に高齢者宅を訪問することであれば支給するとのことで、地域の自治会が主体で行った。冷却ベルトなどの物を持って訪問するなど高齢者にも喜ばれた。来年度は、都からの予算が減ると聞いているが、地域の機運を盛り上げるため継続して実施するべきではないかと考える。 ・熱中症対策を進めた時、地域には「どこに誰がいるか分からないのに配れない」という意見もあったが、何か物を持って高齢者宅を訪問し、コミュニケーションが図れるのは良いことだと思う。核家族化が進み高齢者世帯が増える中、自治会の活動を拡大し、コミュニティの関係をつくるためにも、地味な活動が重要であるので、行政の支援が止まらないように、補助を打ち切らないで欲しい。 ・市で地図を購入し、自治会に配布することも考えてもらいたい。 ・地域医療体制の整備や高齢者医療制度の普及、推進について、どのようなことを考えているのか。平成22年からホスピスを考える会をつくり活動を続け、議会に請願を出している。市には診療所規模で良いので土地を貸してもらおうよう要望しているが、市では特定の医者には貸すことはできないとの話があった。福祉も大切であるが医療も大切であると考えます。 ・友人が一人暮らしになったので、杉並区に高齢者施設に入った。府中市には、そ

健康・福祉	<p>の様な場合にどの程度入る施設はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピスについて、今まで署名を集めて提出しているが、市からの回答がない。前市長へ直接話をしてしているが、聞くだけで回答がない。調布市にはあるが、府中市にはないという状況である。 ・署名は、約9100名分提出して、市議会でも採択されているが、ホスピスについてまったく進行していない。 ・高齢者のための施設は、府中には何箇所あるのか。 ・高齢者の孤立死が多くなっている。高齢の親と住んでいたが、市から一度も訪問を受けたことがない。地域の住民とは、家族構成などの会話をしないのが通常である。この様な状態を踏まえ、ぜひ真剣に議論し方向付けしてもらいたい。 ・民生委員については、地域の担当者は分からないし、気軽に話ができる関係は構築されていない。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・この地域では、多磨参道の落葉の清掃の問題がある。いい環境を保全するために、市民と行政とが連携する仕組みをつくってもらいたい。 ・ごみの減量化や資源化について、透明のプラスチックトレイの回収が、店によっては行われていない。また、トレイのシールが取り外しにくいこともあり分別が進まないの、行政から指導できないか。 ・ごみの分別では、一人暮らしのアパート住民のマナーが悪い。市からも頻繁に啓発してもらいたい。 ・道路を清掃していると空き缶などのごみが多くある。回収しているが、収集日が金曜日で、置き場に困っている。ボランティアが回収したごみについては、曜日を限定せず出せるようにしてもらいたい。 ・十小が工事しており、今地震が発生したらどうするのか周知してもらいたい。今後、地域住民として体制をつくる必要があるの、第6次総合計画の中で対応してもらいたい。
文化・学習	<ul style="list-style-type: none"> ・市民サークルに補助金が出ているが、予算が削減されている。高齢者がいきいきと活動しており、予算を削らないようにしてもらいたい。
都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・多磨参道の車道整備をしてもらったが、歩道は桜の根が張りレンガに凹凸ができ横転しやすく、電動車椅子の通行には不向きである。歩道を改修してもらいたい。 ・市長が地域に来たとき、府中駅の中心部の話をしていた。この地域のことを考えて話しをしてもらいたい。 ・紅葉丘地域には、人見街道の踏切の問題がある。市として考えてもらいたい。 ・紅葉丘地域の街区割りは、明治時代と同じである。府中の中心部は開発が進められて、格差が出ていると思う。 ・多磨霊園ができて開発され、立派な多磨参道ができた。沿道に石屋が並ぶ町並み

都市基盤・産業	<p>は他にはない。そういう見方でこの地区を考えてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画は府中駅南口開発に力を入れているようだか、第6次総合計画は人見街道に力を入れてもらいたい。10年前と比べて人口も車両も多くなっている。具体的にどうするか示してほしい。 ・人見街道の踏切は、車が接触するなどへこんだり、タイヤのホイールカバーが落ちていたりする。大事故が発生する前に、1.5メートルのセットバックを進めてもらいたい。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市と市民との対話が出来ないのが、今の実情だと思う。計画は良くできているが、具体的に対話できる仕組、環境づくりが必要である。 ・市民から受けた話の経過報告は重要である。そのようなシステムが市にあるのか。会議のための会議になっているのではないか。

平成24年3月17日（土） 午後7時～8時
片町文化センター 講堂（参加者 2名）

区分	意見・要望
生活・環境	<p>ケヤキ並木の遊歩道整備はいつごろ実施されるのか。</p>
都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・イトーヨーカドー跡地の南側に商業施設はできるのか。 ・稲城市の向陽台からモノレールが延伸される計画があるというが、府中本町駅まで伸ばしてもらいたい。モノレールが通れば多摩市からも人が来るのではないか。現在はサントリーと卸売市場の間を通して立川に通す計画となっているはずだが、府中用水の上を通せば府中本町駅まで行けるのではないか。 ・京王線府中駅周辺ばかり整備しているので、府中本町駅周辺の整備に力を入れてもらいたい。 ・新小金井街道が整備されると、競馬開催時でも甲州街道と府中街道の交差点が混まなくなるので早く整備してもらいたい。 ・是政から立川へモノレールを通すのは反対である。 ・三多摩の中心は府中市だったはず。中央線が通らないことで廢れた。立川市は交通を集約したことでうまくいっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎の建替はいつ頃行われるのか。府中本町駅前のイトーヨーカドー跡地はどうか。 ・市庁舎を高層化すれば土地は狭くても良いのではないか。 ・京王線はカーブしているため、車輪の磨り減りだけでも年間約1億円の経費がか

その他	<p>かっていると聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町は家康の時代から活用されていた土地である。 ・例大祭の際に、神社の神輿がケヤキ並木を通り甲州街道まで行っても、2時間ぐらいで戻ってこられるのではないか。
-----	--

平成24年3月17日（土） 午後7時～9時

西府文化センター 講堂（参加者 7名）

区分	意見・要望
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・「水と緑」に関して、宅地化や工場進出などにより空き地がなくなった。府中崖線の斜面林を保全している。昭和50年に東京農工大学の調査により自然度が高い樹林だということによって保全地区になっているが、40年も経ってどう保全しているのか方針が見えない。府中市内で自然度が高いところは、斜面林と多摩川だけなのか。 ・昔は湧水もいろいろあったが今はほとんどない。湧水に市が金を出して、100戸に浸透マスを整備し効果が確認されたというが、自然度がより高い西府の湧水に浸透マスを整備してほしいと依頼しているが、市から回答がない。自然度が高い湧水・斜面林を守るために予算を使ってもらいたい。 ・自然が残っているの地域が東郷寺付近など限られている。湧水の周りは住宅で囲まれていて、崖線の景観が崩れている。市として用地を購入してもらいたい。 ・昔から用水路が張り巡らされていたが、暗渠化されてしまった。「水と緑」の水とは、用水路、湧水のことを言うと思う。緑の基本計画で示されていることをぜひ実行してもらいたい。 ・府中用水の国立エリアの私有地が売却され、用水として無償提供されないと聞いた。府中市の用水が使えなくなると農業をしている方が困ることになる。 ・通年で用水が流れるよう、国立市や用水組合と話をしてもらいたいと市に伝えているが、担当者が変わるのでなかなか話が進まない。 ・谷保の堰の水を本流ではなく、はけ側に流すなどのルールづくりが必要ではないか。この問題には経済観光課が参加してもらいたい。 ・府中西高校の近くに住んでいるが、西高は東京都の施設であり、避難所になっていない。住民は高速道路を越えて日新小まで行かなければならない。都の施設であっても、防災の観点から何とかしてもらいたい。 ・NECが避難地域に指定されているが、塀で囲まれており、どこから入ったらよいか分からない。防災協定を結ぶ際には、どの門を開放するのかなども考えてもらいたい。 ・市が自治会に介入することはできないと思うが、自治会で防災のことがほとんど

生活・環境	<p>議論されていない。自治会で地域防災について考えるためには、市の積極的な関わりが必要である。</p>
文化・学習	<ul style="list-style-type: none"> ・府中は、歴史があり、古墳群も多く、それらを踏まえた活動が必要である。各地でイベントを行っているが、市として予算を付けてもらいたい。くらやみ祭も外部からの参加者が減っているようである。せっかくある財産を生かしたまちづくりを進めてもらいたい。 ・分梅町に八雲神社があるが、登録文化財にしてもらえると地域の誇りにつながると考える。 ・郷土の森博物館に、作詞家の村野四郎記念館があった。村野四郎は「ぶんぶんぶん」の曲の訳詩もしている。府中駅の発車ベルをこの和やかな曲にすると良いのではないか。京王電鉄が行うことではあるが、市としてもバックアップしてもらいたい。 ・NECの事業所の中に一里塚がある。若松町にも一里塚があり、いずれも市の文化財となっている。日新町五丁目の水再生センターの横にも一里塚がある。フェンスをして都市整備部で管理しているが、文化財に指定されていない。ふるさと文化財課に調べてもらいたいと伝えている。地元の人は一里塚だと言っているが、新しい市民には何であるか分からない。文化財指定ができるようお願いしたい。 ・住吉町一丁目にある小野神社に、府中で一番古い石碑があると郷土の森の学芸員から聞いた。文化財としての価値もあるのではないか。市としても予算をつけて、地図に落としたり、PRするなどすれば、観光にもつながるのではないか。 ・昔の国鉄時代の旧本宿駅の近くに板碑があるが、昔神社があったのではないか。 ・本宿交番の裏の常夜灯など、府中市にはいろいろな文化財がある。
都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・西府駅が整備された際に踏切が閉鎖されて不便になったとの声が多い。駅のエレベーターは市が管理しているようだが、自転車を乗せることができるよう改良できないか。 ・ちゅうバスの路線で、日新町は府中駅方面の路線がない。現在、区画整理を行っていて、宅地が整備される見込みであり、府中駅行の路線を整備してもらいたい。 ・日新町は街区公園としては整備が進んでいないと聞いているので、優先して整備してもらいたい。 ・府中基地跡地について、国立衛生研究所も来ない、国家公務員宿舎も中止となった中で、予定通り計画を進めていくのか。緑の基本計画は、府中基地跡地を利用することを前提に計画しているがどう考えているか。

<p>都市基盤・産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路網をなんとかしてもらいたい。西原町や北山町はますます宅地開発が進められている。西部地域は道路が不足していて、整備されないとどんなまちになるのか不安である。 ・本宿町から西府町へ抜ける東西方向の道路を整備してもらいたい。この件は、まちづくり懇談会でも答申している。まだ畑なので、宅地化される前に整備してもらいたい。 ・府中基地跡地について、市が3分の1を公園用地として買収すると聞いているが、農業公園にしたらどうか。農家と市民との交流もできると思う。特徴ある公園整備をしてもらいたい。 ・地元の市民グループでは、都市農業を展開すべきと提案しているが、府中基地跡地ではなく、ハケ下や四谷など現在ある農地を使ったらどうかと考えている。府中基地跡地は、長期間放置された結果、自然林に近い状況になっており、自然林として残していくことを市に提案している。 ・府中市における農業公園のあり方を検討してもらいたいと提案しているが、なかなか進まない。 ・大震災がいつ来るか分からないので、避難場所として農地を残してもらいたいと考えている。 ・防災の面から農地を残してもらいたい、私有地であるため利用できないという現実がある。農地を残すためには、市が買い上げるしかないと思う。 ・西府駅の北側が空き地になっているが、今後どうなるのか計画を周知されると良い。近くに住んでいる住民はどうなるのかさっぱり分からない。地域の人の意見を組合に伝えるなど、協働で進めてもらいたい。
<p>行財政運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画が概括的な内容なので意見を出しにくい。 ・市は意見を聞くが、なかなか実現してもらえない。2年位かけ「地域別まちづくり懇談会」を行い、市長に答申したが実現されていない。意見を聞くのであれば実現してもらいたい。今回も、意見の聞きっぱなしになってしまうことが懸念される。実現する方策を講じてもらいたい。 ・総合計画に具体性がない。 ・文化センターごとに市の担当を決めて、町内会の会議に参加してもらい、市政に反映してもらいたい。 ・総合計画審議会は、議員や学識経験者が多いが、もっと一般市民を入れていくべきではないか。総合計画審議会条例も改定し、公募市民を多くすべきである。 ・環境基本計画は、審議会メンバーと検討協議会のメンバーが同じであったが、総合計画はそうではない。今のシステムを変えなければならない。 ・地方自治法も改正されていて、策定の仕方を変えていく必要がある。市民に責任を持たせる必要があると考える。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本日も20～30人位参加者がいると思ったが、これだけの人数しか来ていない。無関心な市民が増えている。 ・はっきり言うとコミュニティが崩壊している。広報と文化センターでのチラシ配布ではこの程度ではないか。市長が来て意見を聞くなど、やり方を変えていくべきである。 ・今日の意見は記録に残るのか。 ・市政に関して、市長に何度も手紙を出したが、形だけの回答しか得られず、手紙を出すのも止めてしまった。 ・今日の会議は参加者が少なすぎる。無関心な市民が増えているようで、市民に関心を持たせるよう仕向けていくことが行政の役割である。 ・本日の意見はどのように公開されるのか。 ・聖蹟桜ヶ丘駅の「耳を澄ませば」や豊田駅の「たき火」の曲が発車ベルで使われているので、府中の駅でも「ぶんぶんぶん」の曲が活用されるようお願いしたい。
-----	---

平成24年3月18日（日） 午前10時～11時30分
 押立文化センター 講堂（参加者 2名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・育児情報・相談体制の充実をお願いしたい。 ・「くるる」で行っている取組などを市民が知っているのか。 ・幼保一元化についても府中市独自で対応できる部分があればお願いしたい。 ・特別養護老人ホームの整備予定はあるか。在宅といわれても老々介護も増えているので、充実してもらいたい。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・公園利用者のマナーの悪さに対する対策を考えてもらいたい。 ・資源循環システムである3R、4Rの普及を充実させてもらいたい。 ・道路へのごみのポイ棄てが多いので防止対策をしてもらいたい。 ・災害時の乳幼児、高齢者の保護誘導策の充実をお願いしたい。 ・高齢化が進む中、生産緑地の維持について考えると、公園に転換するなど検討した方が良いのではないか。 ・小河内ダムが仮に決壊した場合に府中市への影響はどうか。 ・都立府中東高校は避難場所になっていないが、敷地も広いので、都立ではあるものの、避難場所として活用できるようにしてもらいたい。 ・災害時は京王線が踏切をすべて通行遮断となるので、高架部分以外は南北方向の移動ができなくなる。 ・自転車の交通レーンの件で、甲州街道のバイパス付近は自転車レーンを走っていると衝突しそうになるので対策してほしい。

文化・学習	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がもっと使いやすいように、学校施設をより有効に活用してもらいたい。 ・学校の空き教室などの活用で、学校は学校本来の活用方法をするべきではないか。使う場合には入口をしっかりと分けるなどして、安全管理を図るべきである。 ・空き教室があるなら、防災物資の備蓄などをした方が良いのではないか。 ・南白糸台小学校の学童を学校の中に入れることはできないのか。 ・押立文化センターはいつ改修するのか。
都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉の視点からの交通機関として、昔は押立神社から生涯学習センターまでちゅうバスがあったが、南北路線が分かれて今はなくなり、乗り換えても生涯センターには行けないので、対応を検討してもらいたい。 ・ちゅうバスの路線が長いと時間が不安定になるので、個人的には路線が短くなった今の方が便利だが、生涯学習センターに行くのは不便になるかもしれない。 ・買い物が不便なので、商業施設が立地できるような用途地域も検討してほしい。 ・再開発ビルの市民活動拠点というのは具体的にどのような場をいうのか。他の事例を見るとあまり活用されておらず、特定の団体だけが利用しているような状況も見受けられる。 ・商店街の振興を考えると、人を外から呼び込める施設を整備するべきではないか。 ・芸術劇場、美術館など集中している地域もあれば押立町のように施設がない地域もあり、市としてはどのように考えているのか。 ・東府中辺りの側道の整備はどのように考えているのか、高架化しないのか。連続立体が望ましいと考える。 ・都市計画審議会のホームページで押立町公園の南側を買取りして公共施設をつくるという計画が載っていたが、何を造る予定なのか。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用を進めてもらいたい。能力のある人を引き出すような対応をお願いしたい。 ・検討協議会が公募だけで成り立っているのは問題ではないか。自治会、経済界、各種団体等住民を代表できる人選とすべきである。 ・公募だと特定の事業への反対者が集まるなどの問題があると聞いているので心配している。 ・府中市のホームページに市政の資料が載っていない。会議の関係資料が掲載されていないので議論の内容が分からない。市議会も議事録以外資料の掲載がない。 ・第6次総合計画は、5年とか10年ごとなどの長期計画とそれを分けた前期・後期というような計画にはならないのか。 ・総合計画審議会は多様な人が参加しているのか。 ・総合計画審議会に市議会議員が入っているのは違和感を感じる。議会はチェック機関であり、審議会は諮問機関であると思う。 ・市政に関心があるが、ホームページが中心になるので情報の充実をお願いしたい。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎の改修はいつ行うのか。 ・震災を考えると、庁舎はしっかりしたものを造った方がよいと思う。
-----	---

平成24年3月18日（日） 午前10時～午後12時10分

市役所北庁舎 3階第1～3会議室 （参加者 13名）

区分	意見・要望
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・他市の人からは、府中市には多摩総合医療センターがあるから良いといわれるが、予約しても2～3時間待たされることになる。市民が気軽に、紹介状などがなくても行ける眼科、皮膚科、回復リハビリテーションなどもある総合病院が欲しい。 ・以前、市民病院ができるという話があったが、その後どうなったのか。 ・中央文化センター隣の保健センターに歯科医師会館などがあるが、建替える際には病院にしてはどうか。地元に住んでいない医者がほとんどで、夜間・休日に診てもらえないということがあるので、市内に総合的な病院があると良い。 ・高齢化が進んでいるので、市の資料などはなるべく文字を大きく、また分かりやすく作成してもらい。 ・現在の65歳以上の人口は18%程度であるが、平成26年には22%を超えると思う。11万の全世帯の内、一人暮らしの世帯は4万世帯、二人暮らし世帯は2万7千世帯程度で、全てが高齢者世帯ではないが、多くを占めている。民生委員は173名であるが、高齢者対応だけではないので、数が足りないと思う。 ・民生委員の状況、地域の高齢者の問題など、市からの情報提供が少ない。提供があれば地域も協力できる。 ・都は、世帯人員が2名を割ったと報道していた。孤立死の問題は、他人に頼ることをしない高齢者側にも原因があると思うが、これを行政側が解決してもらいたい。市だけではなく、自治会や民間と連携し、取り組んでももらいたい。大震災の後、家族の絆、互助の意識が高まっているので、このタイミングを生かしてもらいたい。 ・待機児童の解消など、子どもの問題についても力を入れてもらいたい。保育園の整備も必要だが、ソフト面も充実してもらいたい。子育てを終えた経験者を活用してはどうか。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急通報システムを普及させるということだが、市民に知らされていない。もっと周知するべきである。 ・自治会で警察関係主催の研修会があり、防犯パトロールの取組の話をしてしたが、地域で防犯パトロールを行う際には、ごみ棄てや自転車の放置、防火などが主題となる。市として市民の安全を守る場合には、地域の問題として捉え、縦割りに

ならないよう取組んでもらいたい。また、そういう視点で総合計画を策定してもらいたい。

- ・ 自宅の周りに公園があるが、犯罪防止のためにも剪定は必要である。
- ・ 甲州街道を信号待ちしていると車の青信号時間が長いが、高齢者が横断するには歩行者の青時間は短いと思う。警察署と協力し、安全・安心というスローガンを実現してもらいたい。
- ・ 45年位前の府中市には、田畑が広がっていた。その情景を今でも忘れられない。自給自足の食生活ができる環境であったが、今は便利すぎる。不便になっても昔の生活を見習うべきである。
- ・ 緑が豊かというが、多摩川周辺も木を切り、土をコンクリート化している。公園緑地課が考える業者のための緑化ではなく、里山の保全や、湧水をそのまま下水に流さないなど、環境・緑の保護に配慮してもらいたい。
- ・ 防災対策の強化について、市から自治会、家庭へという情報伝達のルールになっていると聞いている。市から一般市民に対して、被災時に自治会が機能することを広報してもらいたい。
- ・ マンションを建てる際には、市は自治会に加入するよう指導していると聞いた。公園が多いとメンテナンス費用がかかるので、町内会・自治会等住民の力を上手く活用するソフト事業を工夫してもらいたい。
- ・ 緑町で、自治会とは別に小回りが効く小さな町内会がある。公園掃除は、みんなが公園に集まることで、町内で顔見知りになる。そういう取組が重要であり、市としても力を入れて欲しい。
- ・ 公園清掃への取組などは、自治会の事情により異なる。私達の自治会では、子供会を花壇づくりに参加させることで、その親達の参加を促している。地域で、自分達で何とかする知恵を働かせなくてはいけないのではないか。
- ・ 自治会については、最後は会員自身の問題だと思う。そのためには、一定年齢以上の人達の教育が重要になり、能動的に動ける人をつくる必要がある。それが市の課題である。
- ・ 多くの犠牲を払った第二次世界大戦の敗戦は、私達に自由と権利をもたらした。東日本大震災は、日本が世界に類を見ない良い国になるというのが、歴史的な成果になるのではないか。そのために、府中市もしっかり取組むべきである。
- ・ 押立公園の芝生がなくなり、表面が砂になっている。風が吹くと埃が舞って困っている。乾いたら水をまくなどしてもらいたい。
- ・ 公園に以前はごみ箱があったが撤去されたが、公園では、昼に弁当を食べる人も多く、ごみが不法に投棄されている。不法投棄ごみは誰が片付けてるのか。
- ・ 市の公園は、基本的に市が清掃している。定期的に自治会もパトロールを行い、その中でごみの収集など清掃も行っている。公園は、市民と行政とが協力して清

<p>生活・環境</p>	<p>掃しなくてはならないし、災害時の第一避難場所、防火帯ともなるので、公園のごみ箱は残してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園のごみ箱のごみは、自治会で処理していたが、分別する手間が大変なので、私達の自治会ではごみ箱を撤去した経緯がある。 ・公園のごみは公縁緑地課、道路のごみは管理課、その他はごみ減量推進課というように縦割りなので、何かあるとそれぞれに申請しなくてはならない。1か所で済むようにしてもらいたい。 ・防災について、公共施設の耐震化、水・食糧の備蓄、被災時にも利用できるトイレを考えてもらいたい。 ・災害時のための備蓄品を増やす方向で考えられないか。 ・地域防災計画では地域ごとに被災ランクの色分けがある。ランク3の地域には、その対応について自治会にしっかり周知してもらいたい。市民全体ということではなく、自治会長までに周知・徹底してもらいたい。 ・災害時に市職員が徒歩・自転車で集合できるのか。携帯電話が使えない状況になるので、予備無線も含めて用意してもらいたい。 ・私の住んでいる地域区の小中学校では、年に一度炊き出しなどの訓練を行っている。実際に器具を使ってみたり、燃料の置き場を確認したりしている。器具は古いタイプのもので、使い勝手が悪く、簡単には使いこなせないで、訓練で使い方を理解している人の名簿を備えている。器具については、そろそろ買換えてほしいが、それぞれの地域で、地域住民を取り込むことが必要である。 ・被災時に安否を確認できる笛の普及をしてはどうか。 ・東日本大震災でも問題になったが、備蓄食糧について、アレルギー対策を行ってもらいたい。
<p>文化・学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて市に頼るのではなく、地域、コミュニティを育成して、トータルな力で府中市をつくるという方針を示してもらいたい。 ・自治会ごとにしっかりとまちづくりに取り組むように、市から強く言ってもいいのではないか。 ・自治会というのとは何か、自治会とはどういう仕組みなのか。自治会費を支払っているが、餅つき大会費用など、良く分からないことに使われている。 ・自治会の内容については、市への届出によって、マンション管理組合が自治会を兼ねることもある。所属する自治会の規則などを確認されると分かる。
<p>都市基盤・産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゅうバスについて、今の路線の時間帯を遅くするよりも、新しい路線をつくれないうか。また、税金を使ってバス路線を整備する必要はあるのか。 ・ちゅうバスの収支を明らかにし、広報してもらいたい。収支が分かると市民からも様々な意見が出ると思う。

行 財 政 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・便利帳は良いのだが、実際に問い合わせたい時に、どこが窓口か分からない。話をたらい回しにしないよう、ワンストップサービスを考えていただきたい。お客様相談窓口があっても良いと思う。 ・市内部の制度、組織を改革する方が良いと思う。複雑になりすぎているので簡素化してもらいたい。 ・総合計画というものがあるとは知らなかった。住民は分からない。広報の方法を工夫してもらいたい。 ・この程度の参加人数であれば、事前に広報し、参加者を募り、計画書を送付してもらえれば、読み込んで質問を絞ってから参加できる。このような会議を周知する努力が足りない。 ・今日の会議の進め方や検討テーマについて、広報の内容では事前には分からない。テーマを絞って、周知してもらいたい。 ・参加者は年配者が多いが、若い方の意見も聞きたい。若い方も参加できる会議も開催すべきである。 ・総合計画をつくる際に、ハード面が表に出てしまう。市有施設であればメンテナンスコストがかかる。ハードよりはソフトで市民の自主的な活動を促していく方向性を示してもらいたい。
-----------------------	---

平成24年3月18日（日） 午前10時～正午
四谷文化センター 講堂 （参加者 9名）

区分	意見・要望
健 康 ・ 福 祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者見守りネットワークは、形は整備されているが、今の組織は実行力がない。地域包括支援センターに福祉保健が委託され、民生委員は独自に動いている。自治会は自治会で動いており、連動していない。 ・老人会も健康なメンバーが見守りしている。健常者以外の寝たきりや一人暮らしの高齢者をフォローしてもらいたい。 ・要援護者の問題については、福祉保健部がプランを作成し、自治会にやってほしいとの話はあるが、自治会にそのようなことを求められても困る。 ・自治会はボランティアである。また、自治会はパートナーであり、協働の体制に組込まれるものであり、そういう感覚が市にあるのか。 ・民生委員を選ぶ時に、他市では自治会が推薦などを行っているが、府中市はそれがなく、知らない人が民生委員になっている。具体的な地域の問題を解決するためには、自治会との連携が不可欠である。 ・高齢者対策について、在宅で高齢者を看ている人に対する支援ができないか。介護が必要になったら施設に入れるのではなく、これからは、自分の親はなるべく

健康・福祉	<p>自分の家で見るような気持ちを啓発する意味で、市は何かできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来は民生委員がやるべき仕事を、自治会でやってもらいたいとの話がある。 ・四谷地域の民生委員は、他に地区の人が担当者になっている。
生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化については、各世帯の緑化をいつているのか、どこをめざして緑化というのか分からない。地域の保存樹林もなくなってきている。人口を定めて緑化目標を定めないと実効性が伴わない。緑化目標を達成するために、用途地域ごとに植樹目標や公園整備を検討すべきである。 ・災害時の要援護者の支援は、災害の部署なのか、福祉の部署なのか分からない。 ・生活環境について、生ごみ対策がなされていない。ごみの大半は生ごみであるが、堆肥づくりの体制整備ができていない。また、容器包装プラスチックの回収について、地域業者と体制をつくって対応すべきである。 ・四谷第3公園では、市のモデル公園として協働でどうすれば良いのかを2年考えたが、そのままになっている。 ・下堰緑地の樹木が台風で倒れていたことがある。NPOの環境市民の会と地域の人でごみ拾いなどを行っている。NPOや地域活動により維持できているが、予算がつくわけでもない。水まきや防災にも寄与するので水道を整備するなど配慮してもらいたい。 ・防災体制について、自主防災組織連絡委員会などがあるが形骸化している。防災問題について市民の関心が高まっている中で、共助が欠けている。自主防災組織を地域ごとにつくり、市が援助をして避難訓練などする必要がある。市が提唱して自主防災組織を再構築してもらいたい。 ・この地域には、大規模マンションが3つあるが、マンション内の自主防災組織も確立されていないし、地域の防災に関する取組みにも出てこないなどの問題がある。このことに対する市からの指導もない。 ・防災・減災について、耐震基準が見直された昭和56年以前の家屋がどれくらいあるのか。また、どの程度耐震診断を受けているのか教えてもらい。 ・府中市内には井戸がある箇所が相当ある。そのようなところを災害時に使えるようにしていくことが必要である。 ・防災で、以前は公園に避難するとのことだったが、東日本大震災の際に公園に避難したが誰もいない状態であった。日ごろ顔見知りの方への支援もできなかった。安全に向けた啓発活動が重要である。阪神大震災の直後は、自治会で避難訓練を行ったが最近は行われていない。 ・小河内ダムが決壊した際の話をしてもらったことがない。 ・防災課に何度も防災無線が聞こえないと伝えているが返事がない。聞きづらいところについては、携帯の安心安全メールに防災無線の情報が流れるようになったが、周知されていない。

<p>生活・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の施設が老朽化しているとの話を聞いているが、防災センターはどこにあるのか、また、安全な場所にあるのか。 ・防災計画を策定中のようだが、土地の安全性に関する詳細な調査を行っているのか。 ・防災無線のスピーカーの点検はどれくらいの頻度で行っているのか。反響が多く、何を言っているのか分からない。 ・自主防災組織をつくるというのは良いが、自主防災倉庫に何が入っているのか分からない。発電機が入っているのなら、定期点検をするなどのルールが必要である。市の倉庫は水や食料が入っていると思うが、自主防災組織に期待するならば、備蓄品の保管のルールを示したり、備蓄品を提供するなどしてもらいたい。
<p>文化・学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会をやめていく人たちがいる。自治会自体をどういう組織にするのかを考えなければならない。 ・生涯学習センターを指定管理者に移行することが決まっているようだが、他市の状況などについて教えてもらいたい。指定管理者にするメリット・デメリットがあるが、本当に指定管理者が良いかどうか考えてもらいたい。
<p>都市基盤・産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準工業地域は、工場の臭気や騒音などにより住環境が悪化している。事業者にも苦情を出しても対応しないし、話し合いの場も設けない。市は十分な指導も行わず、非常に不満である。我々は税収のための犠牲者ではない。なぜ用途地域を変更したのか。元に戻してもらいたい。 ・道路の問題で、四谷を通る府中3・4・3号線について市はどう取り組んでいくのか。今の計画では28メートル道路の計画で、都が行う工事のようだが、市としてもサポートしてもらいたい。この道路ができることで地域住民の利害関係が対立しないか心配である。 ・農地が減っているのは、国の制度がそうだからだと考える。三大都市圏は、農地を宅地や工場にしていくという国の方針であるので仕方がない。市ができるのは市街化区域農地に対する取組である。市街化区域農地には宅地並みの課税がされているが、農家はいざという時のために市街化区域農地にしている。しかし固定資産税が高いため、売らざるをえない状況でもある。この地区は、用水など農業環境が残っているので、保全してもらいたい。 ・この地域の農地がますます宅地化している状況である。土地に対して適正な人口というものはあると思う。緑と宅地のバランスのとれたまちづくりができると良いと考える。 ・府中市の西側は農地が多いが、一方で工場が整備されていて矛盾しているように感じている。 ・西友が今秋にオープンするとのことだが、市は防災協定を結ぶなど、やるべきことは沢山ある。立川断層の問題もある。第6次ではなく、第5次の後期総合計画で対応すべきことがあるので、様々なことを考えて行政は動いてもらいたい。

都市基盤・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・「日新まちづくりの会」などとの連携などを進めてもらいたい。今からでも良いので、第5次総合計画の最後のまとめとして、第6章に示されていることを実践してもらいたい。 ・私が住む準工業地域は、1500平方メートル以上の建物でなければ説明会をする必要はないとしている。業者は市の指導の下にやっているといい、問題が生じてもしようもない状態である。問題があれば市から指導してもらいたい。 ・府中市は、税制のために準工業地域にしているのか、地域市民のために対応していない。 ・公園について、宅地開発が行われる際に公園整備を行わないで済む、ぎりぎりの規模で開発が行われていて、防災上危険である。 ・地域別まちづくり方針について熱意を持って2年間かけて検討し、市長に提言したが、私達の意見のどこまでが具体化されたのか分らない。これまでの取組みの反省がない中で新しいことに対して意見することなどできない。 ・市は担当者が変わるが、きちんと引き継がれているのか。何のために地域別まちづくり方針を検討・答申したのか分らない。 ・「まちづくり検討協議会」は大きなエネルギーをかけて取組み、答申としてまとめたが、その結果が具体的な形でどのように市政に生かされたのかをフィードバックしてもらいたいと意見も付したが、それが無いという印象がある。 ・25万人以上であれば、特例市などになれると考えられ、騒音に対する規制を行うことができると思う。住宅地はもっと厳しい規制をかけるべきである。
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画の内容を見ても、書類だけでは策定に関わっていた人の考えが分らないことがあり、思いが途切れてしまっている感じを受ける。市民検討協議会に皆さんの意見を引き継いでいきたいと考えている。 ・市民からあがったクレームに対する指導結果を公開する仕組みをつくってもらいたい。プライバシーなどを理由に公開できないなどの話が多過ぎる。 ・ホームページの使い勝手が悪い。更新ボタンを押さないと、未だに野口市長の顔が表示される状況である。更新ボタンを理解できる高齢者は少ないのではないか。 ・市は市民に対する細かい配慮ができていない。 ・行政は一度決めたことをなかなか変えない性質がある。府中市は、率先して時代にあった制度に見直してもらいたい。 ・協働のパートナーのヒアリング先として、自治会を入れることはできないのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを用いるなどして説明会を行うべきではないか。特に地域について絞って説明してもらいたい。 ・本当に私達の意見が生かされていくのかという疑問がある。

その他	<ul style="list-style-type: none">・市民検討協議会もその都度募集していて、つながりがない。少なくともまちづくり検討協議会の経験者を推薦して入れるなどできなかったのか。・市の人口をどれくらいに想定するのかを考えていく必要がある。・会議に参加した皆さんがどのような話をしているのか、意見を聞きたいと思って出席した。・伊勢丹が撤退でもしたら、その跡に市役所が入るということも考えられる。
-----	--